

# いつでも現場主義！

わたなべ 富士雄

# 渡辺ふじおの挑戦

とにかく現場に足を運び、自分の目で見、耳で聞いたことを区政につなげよう——この初当選時の誓い  
のまま渡辺ふじおは3年半を走り抜き、少しずつですが挑戦の足跡を残すことができました。  
真心で支えていただいた皆さまへの感謝の思いを胸に、さらなる挑戦を続けてまいります。



Vol. **9**  
http://www.w240.net/



## 現場ストーリー

### 集中豪雨 その1



豪雨に変わった。夏祭り会場にいたふじおは直ちに区役所へ連絡。善福寺川が警戒水位を超えそうと聞きあわててカッパを着込み現場に向かった。川は既に氾濫寸前。道路は至る所で冠水し、車が次々と立ち往生。目を疑うような現状を、ふじおは区役所につきぶさに報告、さらに警察と消防にも救援を要請した。そして住民とともに、立ち往生の車を押し戻したり、交通整理にと奔走。すると、近所の婦人が「床上浸水で身動きできない！一人暮らしのおばあちゃんがいる、水が凄く助けて行けない」と。直ちに向った先が冒頭の家だった。

2005年9月4日、夜。胸まで浸かる濁流の中を、渡辺ふじおは必死に前に進んだ。たどり着いた家は停電で真っ暗。部屋から流れ出す家財道具が激しく足に当たる。「○○さあーん！」。暗闇に向かつて名前を叫ぶと奥から弱々しい返事が。手探りで進むと、ベッドの上で助けを呼ぶ婦人がいた。「もう大丈夫ですよ」と励まし、婦人を背負って外へ向かう。しかし、濁流の凄まじい勢いに押され前に進めない。大声で助けを呼ぶと運良く2人の警察官と遭遇し、無事救出

時間1000ミリ超、床上・床下浸水2千件以上という大水害。この日、夜半に降り始めた雨は突然

幸いにして杉並区で人的被害はなかったものの、多くの教訓が残った。真つ先に現場に駆け付け、被災者のやり場のない怒りを聞き続けたふじおは、区の手薄な防災体制を痛感。「二番重要なのは速く正確な情報」と、現場で学んだことを区議会で次々と提言、実現させている。

## こうなりました！

- 1 電子メールで、「大雨・洪水注意報」「河川水位情報」「雨量情報」を自動配信
- 2 区ホームページにも、新たに「雨量情報」「河川水位情報」を追加
- 3 携帯サイトホームページから、杉並区の「河川水位情報」「雨量情報」が
- 4 ケーブルテレビで、気象警報情報をテロップで流す

## 現場ストーリー 2 その 陸上部コーチ



「はい次、ダッシュ5本！」「もっと足を上げて！」。大きな声で陸上部員に声をかけるジャージ姿のコーチ。どこの中学でも見られそうな練習風景だが、実はちょっとだけ違う。阿佐ヶ谷中学のグラウンドで週2回、陸上部のコーチを務めるのは、なぜか渡辺ふじお区議なのだ。

きっかけは校長先生との懇談。中学の部活の厳しい状況を聞いた。教師が多忙で顧問の絶対数が足りず、満足に活動している運動部は数少ない。阿佐ヶ谷中でも前の陸上部顧問が転勤後、サッカー一部の顧問が兼任しているとのこと。中学、高校と陸上部で県大会にも出場、「仲間と共に汗を流したことが一番の思い出」というふじおにとって、この現状は見越すことのできないものだった。

「子どもたちの、そんな思い出づくりの少しでもお役に立てば」とコーチを引き受けた。断じて売名行為ではない。子どもたちと共に汗を流し、大会に引率し、一緒に泣き笑いしている。

この秋、地元小学校からの要請で陸上部員が運動会に招待され、リレーの模範演技を行った。午後一番の演目。選手達は、スムーズなバトンタッチと見事な走りを披露し大喝采を浴びた。誇らしげに胸を張って退場する選手の姿に思わずジンときたという。

部活動の顧問不足の問題は区議会でも取り上げた。その結果、来年度から外部コーチが拡充され、部活動のあり方を検討する協議会が設置されることになった。

## 現場ストーリー 3

### “学校のおやじ”

その

「地域ぐるみの子育て」の必要性が叫ばれるようになって久しい。言うは易くで、実際にはそう簡単ではないが、これにも渡辺ふじおは体当たりで挑戦している。

始まりは2004年。「杉七小」在学のお父さん20人ほどで「杉七おやじの会」を立ち上げた。当初は学校行事の警備程度だったが、多くの子どもたちと接する中で「自分の子どもだけでなく学校のおやじになろう」ということにな

った。サマースクールの開催にはじまり、地引網大会、盆踊りの出店、寄席、紙飛行機大会、キャンプ、バーベキュー大会、防災訓練の開催運営など、わずか2年ほどで活動がどんどん拡大。いづれも大盛況で、最近では学校だけでなく町会行事への依頼もくるように。今年からは新たに阿佐ヶ谷中学のおやじの会にも参加。現在、おやじの会は「杉並おやじネットワーク」

